

課題名	重心動揺計の新しいパワースペクトル解析第二報 ーパワー・分散制御変化と臨床応用についてー
承認番号	2021-22 番
研究機関名	横浜市立みなと赤十字病院
研究責任者	所属 めまい平衡神経科 氏名 新井 基洋
研究期間	(西暦) 2021 年 11 月 ~ (西暦) 2022 年 10 月
研究の意義・目的	めまい、ふらつきを評価する検査機器に重心動揺検査があります。 重心動揺計の沢山ある項目の中で 6 ヶ月間の前庭リハ治療で、自覚症状改善をある程度予測できる評価パラメータを見出す検討です。
研究の方法 (対象期間含む)	対象： 2017 年 4 月～12 月に当院に紹介入院しためまい患者で調査への参加同意が得られ、6 か月まで追跡および検査が施行できた 43 症例 (男性 3 例、女性 40 例、平均年齢は 64.3±12.4 歳) を対象 (承認番号 2017-33 倫理委員会で許可を頂いた再利用研究)。 方法：検討項目 加療開始時と、退院 6 ヶ月後の再来時において下記項目の検査で、「重心計パラメータで 6 ヶ月後臨床症状の評価が予測できる」為の、下記の①～④について相関関係を検討した。 ① 重心動揺検査 (開眼) 単位軌跡長 / (開眼) 外周面積 / (閉眼) 単位軌跡長 / (閉眼) 外周面積 / 正規化総パワー / 頻度中央値 (期待値) / 頻度 SD ② めまい症状検査 DHI-Total ③ 精神症状検査 STAI (不安)、SDS (うつ)、POMS (情緒不安定) ④ QOL 検査 SF-8 (PCS, MCS)、 3. 統計学的解析 統計解析は Excel 統計 (Ver3.21) の一元配置分散分析を用います。 検定は Tukey の多重比較検定です。 4. 研究成果と予測される利益 治療で 6 か月後の改善する・治療で非改善なども助言できます。
試料・情報の利用目的及び 利用方法 (匿名加工する場合や他施設へ提供 される場合はその方法を含む)	2017 年 3 月～2018 年 3 月に当院を入院加療して頂いた 65 歳以上の高齢者の平衡障害患者 43 例のめまい患者結果を再利用したもの
利用又は提供する 試料・情報の項目	2017 年 3 月～2018 年 3 月に当院を入院加療して頂いた 65 歳以上のめまい結果など過去に収集し得たデータを 2 次利用する研究です
試料・情報を 利用する者の範囲	横浜市立みなと赤十字病院 めまい平衡神経科 の新井基洋のみです
試料・情報の管理における 責任者の氏名又名称 (当院及び提供先)	横浜市立みなと赤十字病院 めまい平衡神経科 の新井基洋です

問い合わせ先	当研究に自分の情報を使用してほしくない場合等のお問い合わせ 〒231-8682 神奈川県横浜市中区新山下 3-12-1 横浜市立みなと赤十字病院 所属 めまい平衡神経科 氏名 新井基洋 TEL:045-628-6100 (代表) 内線 3808 (事務局) / FAX:045-628-6101
--------	--